

鶴川漁協厚真支所ホッキ部会が ホッキ貝を寄贈

鶴川漁協厚真支所ホッキ部会の西舘純之部会長は9月6日、町教委に学校給食用のホッキ貝約50kgを贈りました。

ホッキ貝は、前浜で採れた10年前後の天然物で、資源保護を行いつつ採捕しています。水揚げされた新鮮なホッキ貝が、遠藤教育長に贈られました。

西舘部会長は「身が締まって味もよく、大勢の人に食べてほしい」と話すと、遠藤教育長は「学校給食で広く子どもたちに提供し、食育を通じて更に郷土の産業への理解を醸成します」とお礼を述べました。ホッキ貝は16日、町内のこども園2カ所や小・中・高校5校にホッキカレーとして提供されました。



遠藤教育長にホッキ貝を寄贈する西舘部会長

厚真産ハスカップのジェラートを発売 株式会社ダイマル乳品(セコマのグループ会社)が商品化



商品をPR報告する寺崎社長



果実を思わせる北海道ハスカップジェラート

道内大手コンビニエンスストア・株式会社セコマのグループ会社で、プライベートブランドアイスなど作っている株式会社ダイマル乳品(寺崎寿哉社長、羽幌町)は、9月11日から厚真産ハスカップを使った新商品「Secoma 北海道ハスカップジェラート」の販売を始めました。

ジェラートは、町と株式会社セコマが令和元年5月に締結したまちづくり連携に関する協定に基づいて商品化。ハスカップの消費拡大やブランド化を目指しています。厚真産ハスカップのアイスは6品目で、カップには「北海道厚真産ハスカップ使用」と表記。皮ごと絞った果汁10%を使って滑らかな舌触りにし、酸味と甘さが凝縮されたぜいたくな味に仕上げました。

発売を前に町役場を訪れた寺崎社長は「日本一の作付け面積を誇る厚真町のハスカップ。生産者の思いも込めて、PRのお役に立ちたいと思っています」とあいさつ。宮坂町長は「非常に食べやすい。商品を通じて、元気な町の姿が全国に伝わることを願っています」と語り、果実を連想させるぜいたくな味に笑顔を浮かべました。

ジェラートは、セイコーマート全店(道内と茨城県、埼玉県)などで販売。道内は1個200円(税抜き)、茨城県・埼玉県は1個220円(同)。

厚真ライオンズクラブが 浜厚真地区で清掃奉仕



デイキャンプなどで人が集まる浜厚真海浜公園でゴミを拾う参加者たち

厚真ライオンズクラブ(大捕孝吉会長、会員35人)は8月21日、浜厚真の野原公園と浜厚真海浜公園で清掃奉仕に汗を流しました。

厚真ライオンズクラブは清掃奉仕を今回初めて実施。「私たちの地球環境を守ろう」というスローガンを立てて、来年以降も活動を続けます。

この日は、26人が参加しました。参加者は、オレンジ色のそろいのベストを着て両公園に出かけ、約1時間半かけてゴミを回収。ペットボトルや空き缶、ビニール袋などを分別し、小型トラック2台分ほどのゴミを集めました。

令和3年度厚真町戦没者追悼式が8月27日、総合福祉センターで開かれ、遺族や来賓など約50人が戦禍の犠牲者へのしるし、恒久平和を誓いました。

式辞に立った宮坂町長は、戦争を知らない世代が増えたことにも触れ、「平和の尊さや平和を堅持する知恵を次の世代にしっかり継承しなければなりません。戦没者から託された郷土・厚真の輝きを必ずや町民一丸となって取り戻します」と語りました。また、来賓の渡部議長は「天災や疫病に屈することなく、安心して暮らすことができる平和で豊かな郷土・厚真を築くために、全力で取り組みます」と追悼の辞を述べ、町遺族会の加勢敏和会長は「地域の温かい励ましをいただきこれまで生きてきました。遺族は高齢になりましたが、来年も参列できるよう健康で過ごします」と謝辞を述べました。

町戦没者追悼式 恒久平和を誓う



厳粛な雰囲気で行われた厚真町戦没者追悼式

地域おこし協力隊の2人に 町教委が委嘱状交付



遠藤教育長から委嘱状を交付された川嶋さん(左)と加藤さん(右)

町教委は8月1日付で、地域おこし協力隊の2人に委嘱状を交付しました。

就任したのは、いずれも地域おこし協力隊の教育魅力化支援員で、岐阜県出身の川嶋圭さんと埼玉県出身の加藤千昇さんです。2人は、来年4月から本格始動する予定の厚真高校公営塾の運営スタッフとして活動します。

2人とも、厚真町を訪れるのは初めてで恵まれた自然を肌で感じながら生活を始めています。川嶋さんは「新たなプロジェクトなので、人が集まるような仕掛けを作りたいですね」と話し、加藤さんは「町民の皆さんから学ぶ姿勢を心掛け、さまざまなことを吸収していきたいです」と抱負を語りました。